

○青木さちえ 副委員長

委員長の職務を代行いたします。

休憩前に引き続き委員会を開きます。

新しい杉並の質疑を続行いたします。

それでは、増田裕一委員、質問項目をおっしゃってください。

◆増田裕一 委員

子どもの予防接種について、あと保育室について。使用する資料は整理番号319です。

また、委員長、質疑の途中で資料をお示ししたいと思いますので、よろしくお願いします。

○青木さちえ 副委員長

許可いたします。

◆増田裕一 委員

委員会の冒頭に保健所長より、先日、ヒブ、小児肺炎球菌のワクチン接種後にお子さんがお亡くなりになり、ワクチン接種につきまして厚労省から対応の指示があった旨ご報告がございました。亡くなったお子さんに心から哀悼の意を表します。

さてこの間、2月1日から、ヒブ、小児肺炎球菌のワクチン接種に対する全額公費助成が始まり、新年度の一般会計予算案で、水痘、おたふく風邪のワクチン接種に対する一部公費助成が提案されました。予防できる疾病から子どもの健康を守るとの立場から、今回の取り組みを前向きに評価をしております。それぞれ取り組むに至った経過と背景をお尋ねいたします。

◎保健予防課長

ヒブワクチンと小児用肺炎球菌ワクチンにつきましては、国のほうからも積極的な接種の促進を促すというようなことで補助金の補正予算が組まれましたので、その動きも踏まえまして、早期に実施をし、開始させていただきました。

あと、水痘とおたふく風邪につきましては、いろいろな任意接種がある中で優先度が高いということで、一部公費助成を始めまして、今回、健康と医療・介護の緊急推進プランの中で、子どもの健康を守るというような意味合いで助成を考えたということでございます。

◆増田裕一 委員

先日、区内の予防接種協力医療機関として公表されている小児科のお医者さんと保護者を対象としてアンケート調査を実施いたしました。ご多忙のところご協力い

いただいた皆さんにはただただ感謝いたしますが、大変興味深い結果が得られましたので、以下お尋ねしてまいります。

まず、保護者の皆さんから寄せられたご意見といたしまして、「杉並区の予防接種行政は充実していると思う」と回答した方が実に9割を占めました。こうした保護者の皆さんの評価は前向きにとらえたいと思います。

一方で、お医者さんのご意見といたしましては、任意の予防接種への公的な体制、支援について、すべ・トの方が「さらに充実させる必要がある」と回答されました。本来であれば疾病の予防は国や東京都など広域行政で取り組むべき課題ではありますが、広域行政で取り組まないのであれば、身近な自治体である区が進取の精神で取り組むという姿勢も失ってはなりません。

そこでお尋ねいたしますが、これまでの区の予防接種行政を振り返り、区としての総括をお尋ねいたします。

◎保健予防課長

定期接種に関しましては、すべて公費助成というようなことで実施しておりまして、その他の任意接種につきましては、21年8月からヒブワクチンの一部助成を開始し、また、同年11月からは新型インフルエンザワクチンの助成、また、子どもに限っていいますと、ことしの2月からはヒブワクチンと小児用肺炎球菌の無料化というようなことで公費助成の拡大を図ってまいりました。

◆増田裕一 委員

総括していただき良かったんですね。まあいいです。

アンケートによりますと、「接種スケジュールについて悩んだことがあるか」との設問に対して、実に9割の保護者の方が、「はい」と回答しております。また、お医者さんの自由意見の中には、保護者向けに予防接種の接種時期や副反応等について講習会を開くべきだとのご意見もございます。接種の順番や接種の間隔をあけなかったことで接種事故につながる事例が全国で見受けられ、予備知識を持たない状況での予防接種には危険性を伴います。また、杉並区では任意接種の公費助成制度が充実することで、それらの広報と定期接種のお知らせが重なり、保護者が迷うおそれがあるため、何らかの対策が必要でございます。

委員長、ここで用意した資料をお示ししたいのですが、よろしいでしょうか。

○青木さちえ 副委員長

許可いたします。

◆増田裕一 委員

例えば先日報道されましたが、日本小児科学会が発表したワクチン接種の優先順位、こちらは新聞の画像からの切り抜きでございますので、若干わかりづらいんですが、解説しますと、上から2カ月、3カ月、4カ月と、それに合わせてどういった予防接種をするかというワクチンの情報が書いてあります。こういったことを

日本小児科学会のほうで取り組んでおられる、発表されたということです。

また、民間団体が公表している予防接種のスケジュール、こちらですね。こちらは縦にワクチン名が書いてありまして、これまた小さくて申しわけないんですが、こういった形で横に何歳何歳と、ここが1回目、・アこは2回目といったような形で、こういった資料をつくっている民間団体もあるというふうなことでございます。こういったものを参考にしながら、保護者にとってわかりやすいパンフレットを作成し、広報することも一つの考えですが、区のご所見をお尋ねいたします。

◎保健予防課長

区では、すこやか赤ちゃん訪問事業の際に、当面必要な予診票については配付をしております、その中で各予防接種の内容ですとか副反応の内容、また接種スケジュール等をお示ししているところです。ただし、その内容は定期接種に限られておまして、定期接種は区で積極的に接種勧奨をして接種率を高めなければいけないという役割を担っておりますので、その定期接種と任意接種とを一緒に扱いで接種勧奨するというふうなことはなかなか難しい状況です。ただし、今回始めました小児用肺炎球菌、ヒブワクチンにつきましても、ワクチンの内容ですとか副反応の内容については、広く周知を図るように徹底していきたいと思っております。

◆増田裕一 委員

今度新たに任意接種に公費助成を始めるわけでございますので、行政の責任として、こういったわかりやすい形でのスケジュールを示していただくということもぜひ整理して考えていただければと思います。

また、お医者さんから寄せられたご意見といたしまして、B型肝炎のワクチン接種に公費助成すべきであると回答した方がいらっしゃいました。我が国におきまして、B型肝炎ウイルス保有者は150万人程度と言われております。そのうちの10%が肝炎を発症し、慢性肝炎、肝硬変、肝細胞がんに行進します。しかし、95%は自然治癒しますが、ウイルス保有者のうち5%が慢性肝疾患になります。また、ウイルスは血液を介して感染します。直近の事例では、秋葉原通り魔殺傷事件の際に被害者の救護に当たった方が、血液によりB型肝炎に感染したとの事例がございました。

B型肝炎は、感染すると最悪の場合命を奪われる危険性がございますが、ワクチン接種により感染を予防できるのであれば、優先して取り組むべき疾病の一つであると言えます。

そこでお尋ねいたしますが、疾病としてのB型肝炎に対する認識と、ワクチン接種の効果や副反応等につきまして、区のご所見をお尋ねいたします。

◎保健予防課長

B型肝炎につきましては、現在、国のほうでも母子感染防止事業というようなことで、ウイルスのキャリアであるお母さんからの出生児への感染を防ぐというよう・ねことで対応をしているところです。母子垂直感染につきましては、その対策でキャリア化を90%以上の確率で防げるというようなことが言われておまして、その施策が徹底していけば、キャリアがだんだん減ってくるのではないかとというようなことが当初見込まれておりましたが、最近では、欧米のほうからのウイルスの

流入等もありまして、感染事例が発生して、問題になっているというような認識はしております。

現在、国のほうの予防接種部会でもB型肝炎のワクチンの取り扱いについて検討を行っているというふうに聞いておりますので、その検討内容等に注目してまいりたいと思っております。

◆増田裕一 委員

ぜひ動向を見守りながら、迅速な対応をとっていただければと思います。

話題を変えます。

子育て応援券を子どもの季節性インフルエンザのワクチン接種に使用した金額は、平成21年度決算額ではどれくらいでしょうか。

◎子育て支援課長

21年度決算の支払いベースでございますが、インフルエンザの予防接種につきましては、約7,950万となっております。

◆増田裕一 委員

結構な額ですね。

ところで、千代田、台東、世田谷、渋谷区では、子どもの季節性インフルエンザのワクチン接種に対する公費助成制度が創設されております。杉並区では、ワクチン接種に子育て応援券を利用できるようになっておりますが、助成制度は創設されておられません。このたび水痘、おたふく風邪のワクチン接種に対する公費助成制度が創設され、任意接種全般にわたり公費助成制度が確立されてまいりました。そうした中、子どもの季節性インフルエンザのワクチン接種だけが子育て応援券による助成であり、制度としていびつであります。

また、アンケートによりますと、お医者さんの中には、子育て応援券の集計事務に大きな負担を感じている方が少なからずいらっしゃいます。今現在、子育て応援券事業は見直し局面でございます。子どもの季節性インフルエンザのワクチン接種に対する公費助成を子育て応援券事業から切り離して制度として独立させることも一つの考えですが、区のご所見をお尋ねいたします。

◎保健予防課長

季節性インフルエンザワクチンへの子育て応援券の使用につきましては、区民からの強い要望でそのような体制になったというふうに聞いております。今回、こちらでは、ワクチンの公費助成を始めるに当たりまして、対象疾病の罹患の頻度ですとか対象疾病の重症度、ま・WHOからの勧告、予防接種費用の負担感等を総合的に勘案いたしまして、優先度の高いものから順番に公費助成をしたというようなことでございます。

◆増田裕一 委員

余り答えになっていないんですけどね。任意接種全体の制度が大分整備されてきて、ほかの自治体と比較いたしましても、請求した資料でも、杉並区は千代田区や渋谷区と並んで大変熱心に取り組んでいる自治体だと思しますので、この際、制度全体を見直すという面でも、ぜひご検討いただく項目かと思います。

この項の最後に、任意接種に対する公費助成制度の今後の方向性につきまして、区の基本的な考え方をお尋ねいたします。

◎保健予防課長

先ほど申しあげましたとおりに、任意の予防接種につきまして、さまざまな視点から優先順位をつけて公費助成を行ったということです。

また、国のほうの予防接種部会でのワクチンの再検討がされておりますので、国の動向に注目しながら、今後検討してまいります。

◆増田裕一 委員

この間の区の取り組みというのは私も大変前向きに評価しておりますので、ぜひとも、子どもをそういった予防できる疾病から守るという観点から、今後も施策を進めていただきたいというふうに思います。

では次に、保育室について伺ってまいりたいと思います。

昨年、第4回定例会で可決されました一般会計補正予算（第4号）におきまして、新たに保育室6所を設置するとのことでしたが、その後進捗状況はいかがでしょうか。

◎保育課長

6所のうち、現在4所決まっております。荻窪西口、西荻北口、勤福会館前と、あと7月予定の旧若杉小が開設が決定しております。

◆増田裕一 委員

予定している残り2所の保育室を設置する見込みはいかがでしょうか。

◎保育課長

あと2所でございますけれども、現在、民間の賃貸ビルを探しているんですけども、なかなか適地が見つからずに、引き続き継続中でございます。

◆増田裕一 委員

どのような地域で保育室が不足しているのでしょうか。

◎保育課長

今回、保育室を旧若杉小も含めて4所でございますけれども、設置したのはみんな大体中央線沿線ということで、そういった意味で申しますと、区の南部あたりはまだ探したいところがございます。

◆増田裕一 委員

そうですね。以前からも、高井戸地域ですとか、そういった京王井の頭線沿線の地域が大分需要が満たされていないというふうに、課長からもいろいろお・bを伺っておりますし、区民の方からもご意見をちょうだいしておりますが、南部地域ということでしたら、例えば一昨年の第1回定例会の予算特別委員会の質疑でも取り上げさせていただきました方南会館・方南会議室というものがございます。こちらの利用状況は、利用率というものをみてまいりますと、大体30%から40%というような利用率でございまして、そういった利用率を考えますと、ある程度余裕を持って利用されているのかなというふうに受けとめておる次第でございまして、こうした施設を区保育室として活用することも一つの考えでございまして、区のご所見をお尋ねいたします。

◎保育課長

民間のビルが出物がなかなかない、そういった厳しい地域もございまして、そういった状況の中でご指摘のような例示もいただきましたけれども、そういった地域であれば区有施設の有効活用、これまでも取り組んでまいりましたけれども、改めて洗い出しをして前向きに検討していきたいと考えてございます。

◆増田裕一 委員

優先順位をぜひ考えていただきながら、4月までもう間がございませんので、ぜひ前向きにご検討いただきますよう強く要望いたします。

最後に、ついでお尋ねいたしますけれども、平成20年第2回定例会の一般質問、一昨年第1回定例会の予算特別委員会におきまして、園児の保護者に一日保育士体験をしていただく親育て事業をご提案させていただきました。その後の検討状況を最後にお伺いいたしまして、私の質問を終わらせていただきます。

◎保育課長

ご提案をいただきまして、現場の保育士などとも一緒に今いろいろと考えているところでございます。